



視力検査のおねがい



どうして目の検査が必要なの？

子どもの目は生まれてからだいたい6歳くらいまでに、どんどん発達し大人並みの視力になります。ところが強い遠視や乱視、斜視などがあると視力の発達が止まってしまい弱視になることがあります。子どもは見えにくくても、自分から「見えにくい」とは言いません。

また、おうちの方が普段の生活の中で子どもの「見えにくさ」に気づくことは、なかなかありません。片目ずつしっかり検査をしないと「片目の見えにくさ」は分かりません。

視力の発達を邪魔する異常がある場合、なるべく早く見つけて治療することがとても大切です。

視覚検査の流れ

一次検査（ご家庭） ⇒ 二次検査（健診会場） ⇒ 眼科精密検査（必要時）の3段階で行います。

↳ 一次検査は、ご家庭でおこなう簡単な視力検査とアンケート（調査票）への記入です。

❗ ご家庭で視力検査が実施できなかった場合や、正しく見えていない場合などには、会場で視力検査を実施します。その場合、順番が前後し長時間お待ちいただく場合もありますので、ご了承ください。

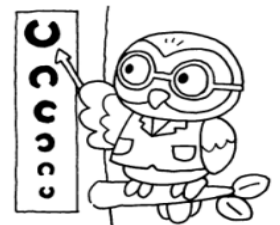
一次検査（ご家庭での視力検査の方法について）

<用意するもの>

ティッシュペーパーもしくはガーゼ・セロハンテープもしくはサージカルテープなど、ハサミ、配布された視力検査用指標（輪）

<片目のかくし方>

ティッシュペーパーを4つに折ってテープを貼っておきます。
片目をかくす時は隙間があかないように気を付けて優しく貼って下さい。



<検査の時の注意点>

明るいお部屋（薄暗い部屋やまぶしすぎる部屋は避ける）で、子どもの機嫌のよい時を選んで行いましょう。

3歳児では、検査を理解するのに時間がかかります。

遊びやゲームの延長が検査につながるよう、声をかけながら何回か練習をしながら検査しましょう。

二次検査（当日の健診会場での検査について）

健診当日は、機器による目の検査を行います。機器による検査は光の屈折をみる検査です。

健診までに、ご家庭で視力検査を必ず実施していただき、結果を調査票にご記入ください。

必要時、当日もランドルト環による視力検査を行います。

ご家庭で視力検査をやってみましょう

大きい輪は練習用で検査では小さい輪を使います

①まずは近くで両目で指さしの練習



*指さしが難しい場合、子ども用のハンドルを持たせ保護者の方と同じ方向に合わせてもらいます



②少し離れて両目で練習（大きい視標）



*視標は子どもの目の高さに合わせてます

*手持ち用の輪は下記HPからダウンロードできます。

日本弱視斜視学会
<https://www.jasaweb.jp/general/3saiguide/guide2>

日本視能訓練士協会
<http://www.jaco.or.jp/ippan/sansaiji/>



③片目をしっかり隠します

*こんなかくし方は×



*すきまができないようしっかり貼ります



すきまから左目で覗いているよ!!

④さあ本番！ 2.5m離れて片目ずつ検査しましょう

(小さいほうの検査用視標 (0.5) を使って右目⇒左目の順に検査します)



*子どもとの距離 (2.5m) はメジャーで正確に測りましょう

切れ目の向きを上下左右の4方向を見せた時の結果を別紙に記入します。

ご家庭で検査がうまくできないとき

- *最初は上手にできなくても、何回か練習をくりかえすと、できるようになります。どうしてもできない場合は、無理強いせず日に変えて検査してみましょう。
- *それでも検査ができないときは、弱視が原因となっている可能性があります。
- *ご家庭でどうしても検査ができない場合には二次検査（健診会場）でおこないます。



「視標 1」、「視標 2」の順で検査を行ってください。

キリトリ

【練習用：視力 0.1】

【検査用：視力 0.5】



お子さん用ランドルト環

*厚紙で裏打ちしたものを作ります。

